YNU

YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY

2023／2024

横浜国立大学 高校生向け大学案内

Prospectus for High School Students

Why Study at YNU?

Why Study at YNU?

実践性・先進性・開放性・国際性・多様性、5つの理念はYNUの教育・研究の原点です。

47都道府県すべてから集まる約10,000人の日本人学生のみなさん、そして世界中約80か国から集まる約800人の留学生のみなさんの多様性が、無限の可能性とともにこの理念を支えています。

文明開化発祥の地であり、グローバル企業が集まる国際都市横浜、みなとみらい地区や中華街をはじめとする観光都市横浜。YNUはこの大都市横浜の中にありながら、緑豊かな落ち着いた一つのキャンパスで、人文・社会系学部と理工系学部が融合した教育を行い、グローバルとローカルな課題に対応できる人材を育成します。

YNUは、これからもみなさんと一緒に多様な学生が生き生きと学ぶことができる教育拠点を目指すとともに、世界基準の教育・研究の成果を社会に発信し、より良い未来を創造していきます。

YNUで学ぶ5つの理由

1 先進的な研究 …… 04
2 実践的な教育 …… 08
3 理想的な立地と環境 …… 16
4 充実した施設と学生支援 …… 20
5 費用と進路 …… 24

お問い合わせ …… 29

数字で見るYNU

創設 1874 Founded in	学部 5 Colleges	大学院 6 Graduate Schools	学部生 7,500 Undergraduate Students
大学院生 2,500 Graduate Students	留学生 800 International Students	常勤教員 600 Full-time Faculty	キャンパス 1 Campus
海外協定校 140 Partner Institutions	県外出身者 70% Students from outside of Kanagawa	出身国・地域 80 Country / Region	学部就職率 95% Employment Rate

1 先進的な研究

研究の強み

YNUでは、世界と日本の人々の福祉と社会の持続的発展に貢献する「実践的学術の国際拠点」として「知」を創造・実践しています。個々の研究だけでなく、先端科学高等研究院では重点的研究のユニットを形成するとともに、研究推進機構が優れた研究プロジェクトを「YNU研究拠点」として認定し、学内および国内外の他機関の研究者との共同研究を促進しています。また、海外の140以上の大学と学術交流協定を締結するとともに、毎年、海外の大学から約300人の研究者を受け入れています。

1 強い分野

YNUは、以下の分野において、科学研究費助成事業※1の
2018-2022年度の新規採択累計数※2が国内でトップ10に入っています。

分 野	国内順位	新規採択累計数	累計配分額（単位：千円）
日本語教育関連	7	6	33,410
経済統計関連	3	6	23,660
経営学関連	7	18	133,640
会計学関連	7	7	24,830
特別支援教育関連	6	8	46,540
数学基礎関連	2	5	25,090
材料力学および機械材料関連	5	8	100,880
電力工学関連	7	6	52,260
電子デバイスおよび電子機器関連	9	6	51,610
構造工学および地震工学関連	6	5	41,860
航空宇宙工学関連	7	6	52,000
船舶海洋工学関連	7	11	129,090
安全工学関連	2	8	81,510
材料加工および組織制御関連	7	6	53,040
光工学および光量子科学関連	7	7	97,110
環境政策および環境配慮型社会関連	9	5	32,760

※1 「科学研究費助成事業」とは人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。
※2 ここでは、基盤研究（B）、基盤研究（C）および若手研究において、新規採択累計数が5件以上の分野に限定。

2 卓越した研究

YNUでは、以下の分野・プログラムが、2018-2022年度に科学研究助成事業の「基盤研究（S）」※に採択されています。

研究分野・領域	氏 名	採択時の所属・職名	プログラム名・研究内容等
ナノマイクロ科学関連	武田　淳	工学研究院・教授	位相制御近接場による ハイブリッド極限時空間分光の開拓
ナノマイクロ科学関連	小坂　英男	工学研究院・教授	ダイヤモンド量子ストレージにおける 万能量子メディア変換技術の研究
電気電子工学関連	竹村　泰司	工学研究院・教授	磁性ナノ粒子のダイナミクス解明が拓く 革新的診断治療技術
電気電子工学関連	吉川　信行	工学研究院・教授	可逆量子磁束回路を用いた熱力学的限界を超える 超低エネルギー集積回路技術の創成

※「基盤研究（S）」とは科学研究費助成事業の中心となる研究種目である基盤研究の中で、「安定的な研究の実施に必要な研究期間」と「研究遂行に必要かつ十分な研究費の確保」により、これまでの研究成果を踏まえて、さらに独創的、先駆的な研究を格段に発展させるために設けられている研究種目。原則5年間、1課題につき5,000万円以上2億円程度まで支給される大型の研究費。例年、日本全国で90件程しか新規採択されていない。

●ムーンショット型研究開発制度 採択プロジェクト

ムーンショット目標		研究開発プロジェクト	PM	所属・職名
目標6	2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現	量子計算網構築のための量子インターフェース開発	小坂 英男	工学研究院・教授
目標8	2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現	安全で豊かな社会を目指す台風制御研究	筆保 弘徳	教育学部・教授

※「ムーンショット型研究開発制度」とは、超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対し、人々を魅了する野心的な目標（ムーンショット目標）を国が設定し、挑戦的な研究開発を推進するもの。各目標には、それぞれ複数のプロジェクトを統括するPD（プログラムディレクター）が任命され、その下に、国内外トップの研究者が、各研究開発プロジェクトを提案し推進する責任者であるPM（プロジェクトマネージャー）として採択される。

3 世界にインパクトを与える論文

Web of Science※1によると、2018-2022年度に発表されたYNUの論文は、
特に以下の分野において世界中で引用されています。

分 野	YNU 論文数	CNCI※2	被引用数	被引用数 世界トップ1%論文	被引用数 世界トップ10%論文
生態学	89	1.79	1642	2.25%	17.98%
機器・計装	83	1.58	484	3.61%	8.43%
物理学総合	89	1.55	1244	3.37%	15.73%
物理学、粒子・界	83	1.45	1135	4.82%	12.05%
天文学・宇宙物理学	91	1.42	1006	4.40%	13.19%
光学	167	1.31	810	2.40%	7.19%
環境科学	112	1.09	1532	0.89%	6.25%

※1 Web of Scienceとは、世界を代表する学術文献データベースのひとつ。1900年にまで遡る世界中の21,000誌（2019年11月現在）を超える影響力の大きい学術雑誌や重要刊行物を対象に、分野を横断した検索を実行して引用文献パターンを分析することができる。
※2 CNCIとはCategory Normalized Citation Impactの略称。CNCIのポイントが1以上の分野は、世界水準以上であると言われている。

① 先進的な研究

注目の国際プレスリリース

国際的な科学ニュースサイトEurekAlert!において、2020-2022年度に本学から発信した国際プレスリリースの中から、注目の6本のニュースをピックアップして紹介します。この他のニュースについても、大学のウェブサイトの「国際プレスリリース」で詳細を確認することができます。

www.ripo.ynu.ac.jp/about/ynu_research/haishin/

先端科学高等研究院（IAS）

本高等研究院は学内の世界水準の科学研究を行う分野を戦略的に集約し、研究に特化した組織です。量子情報研究センター、先進化学エネルギー研究センターの2つのセンターのほか、情報・物理セキュリティ研究ユニット、バイオアッセイ研究ユニット、超省電力マグノニックデバイス研究ユニット、電気エネルギー変換研究ユニットの4つの研究ユニットを形成し、卓越性の強化を図り、世界水準の国際研究拠点となることで本学の研究力の一層の向上を目指しています。

ias.ynu.ac.jp

総合学術高等研究院（IMS）

本高等研究院は学内の分野横断型の世界水準の総合学術研究を戦略的に集約し、研究に特化した組織です。リスク共生社会創造センター、台風科学技術研究センター、豊穣な社会研究センター、次世代ヘルステクノロジー研究センターの4つのセンターのほか、共創革新ダイナミクス研究ユニット、生物圏研究ユニット、革新と共創のための人工知能研究ユニットの3つの研究ユニットを形成し、多様性の強化を図り、世界水準の国際研究拠点となることで本学の研究力の一層の向上を目指しています。

ims.ynu.ac.jp

「YNU研究拠点」、「研究者総覧」、競争的研究資金獲得実績など、YNUの研究に関する詳細は「YNUの研究力」をご覧ください。

www.ripo.ynu.ac.jp/topics/YNUResearch.html

格子体積が変化しないバナジウム系高容量電池材料~実用的な全固体電池実現に前進

Li過剰V系岩塩型材料開発と超長寿命・実用的全固体電池に応用

工学研究院の藪内直明教授、理工学府の小沼樹博士課程大学院生、LIBTEC 幸琢寛主幹研究員、高輝度光科学研究センター 尾原幸治主幹研究員、茨城大学 石垣徹教授、豪州ニューサウスウェールズ大学 Neeraj Sharma准教授らの研究グループは、リチウム過剰型バナジウム系酸化物材料を開発し、本材料が高容量でありながら、充放電時の格子体積変化を生じないことを明らかにしました。また、本材料を硫化物系固体電解質と組み合わせることで400サイクルに渡り特性が劣化しないことを立証しました。全固体電池実用化の壁となっていた格子体積変化の抑制は実用的な超長寿命・高エネルギー密度の全固体リチウムイオン電池実現に繋がる研究成果です。（論文は2022年12月13日に*Nature Materials*にオンライン掲載）

生体外で高効率に長毛を生み出す毛包オルガノイドの作製技術を開発

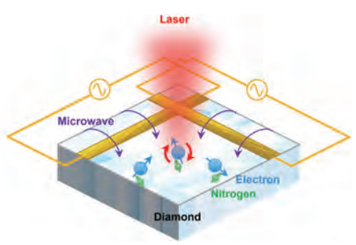
神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）／本学工学研究院の景山達斗研究員／助教、福田淳二プロジェクトリーダー／教授らの研究グループは、生体外で高効率（～100％）に長毛を生み出す毛包オルガノイドを作製する方法を開発しました。ヘアフォリクロイドと名付けられた新規の毛包オルガノイドは、上皮系細胞と間葉系細胞の自己組織化による空間配置を制御することで作製され、産生された毛幹の長さは3mmまで達しました。また、毛球部におけるメラノソームの動きの可視化、毛の色を濃くする薬剤の効果の評価、移植による毛髪再生ができることを確認しました。この毛包オルガノイドは、生体現象理解のための培養モデルおよび白髪や脱毛症の治療薬のスクリーニングツール、そして毛髪再生医療のための移植組織など、様々な用途への応用が期待できます。（論文は2022年10月21日に*Science Advances*に掲載）

液体金属を用いた伸びるリチウムイオンバッテリーを実現

工学研究院の太田裕貴准教授及び上野和英准教授らの研究グループは、液体金属による伸縮可能なガスバリアフィルムを実現しました。開発したフィルムをバッテリーパッケージに用いることによって、大気中で動作可能な、伸びる（ストレッチャブル）リチウムイオンバッテリーを実現しました。今後、次世代のウェアラブルデバイスでの利用が期待されているストレッチャブルセンサーとの連携が期待されるとともに、IoTのための新バッテリーとして期待されます。（論文は2022年9月27日に*ACS Applied Materials & Interfaces*に掲載）

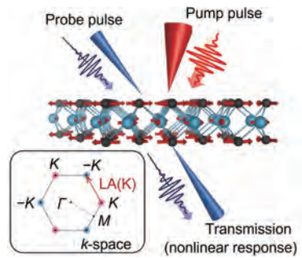
世界初、光ランダムアクセス量子メモリの原理実証に成功

工学研究院／先端科学高等研究院の関口雄平助教、小坂英男教授らは、ダイヤモンド中の窒素空孔中心（NV中心）からなるスピン量子ビットを、独自の手法で高空間分解能かつ高忠実度に制御することに成功しました。従来の手法では、量子ビットとなる電子スピンおよび核スピンは、マイクロ波およびラジオ波によって量子制御されます。しかし、この手法では高忠実度の制御はできますが、空間分解能が低いため、集積化されたNV中心を個別に制御することはできませんでした。一方で、高い空間分解能を持つ光でスピン量子ビットを量子制御する手法も研究されてきましたが、低忠実度であることや、十分に高精度な制御ができないという問題がありました。研究グループでは、光を量子ビットの選択的なアクティブ化、非アクティブ化のランダムアクセス制御に使用し、量子制御はマイクロ波およびラジオ波で行う新しい手法（光アドレス量子ゲート）を考案しました。これにより高空間分解能と高忠実度が両立できることを実験で実証しました。この成果は、ダイヤモンドを用いた大規模集積量子メモリおよび量子プロセッサのための中核技術として、量子コンピュータ、量子通信の飛躍的な性能向上に寄与し、量子インターネットの構築に道を拓きます。（論文は2022年7月28日にNature Researchが発行する*Nature Photonics*のオンライン版に掲載）



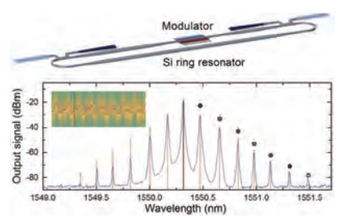
バレー間散乱を引き起こす振動モードの信号を特定

東京工業大学のペ・ソンミン博士、本学工学研究院の片山郁文教授、武田淳教授、Hannes Raebiger准教授らの研究グループは、Rice大学の河野淳一郎教授、韓国科学技術院（KAIST）のYong-Hoon Kim教授、物質・材料研究機構の長尾忠昭MANA主任研究者（兼グループリーダー）らとの共同研究により、原子層物質の一つである単層のMoSe2（セレン化モリブデン）において超高速応答を計測し、ゾーン端の音響振動モードに由来する非線形信号を観測することで、バレー間散乱に寄与する音響振動モードを特定しました。従来、振動数だけでは弁別できなかった振動モードを、非線形信号や第一原理計算に基づいた対称性分析で初めて特定した結果であり、バレー自由度を用いる様々な量子情報デバイスの動作原理の解明に資する重要な成果です。（論文は2022年7月25日に*Nature Communications*に掲載）



人工次元フォトニクスの実証

2016年、トポロジカル絶縁体の新しい電気伝導物理の開拓についての研究がノーベル物理学賞を受賞しましたが、この概念は周期的な構造の中を伝わる光にも当てはまり、さらには光の周波数列などの振る舞いにも適用できる可能性があります。工学研究院のArmandas Balčytis（現在、ロイヤルメルボルン工科大学）、馬場俊彦教授、東北大学 小澤知己准教授、慶應義塾大学 太田泰友准教授、および東京大学 岩本敏教授は「人工次元」と呼ばれるこのような周波数列のユニークな光学現象を、世界標準的な光集積プラットフォーム「シリコンフォトニクス」を用いて初めて実証することに成功しました。これは人工次元を用いたトポロジカル現象実現への第一歩となり、トポロジカルフォトニクスが単なる物理学的な研究から、様々な光部品に応用される新しい要素となり得ることを示唆しています。（論文は2022年1月28日に*Science Advances*にオンライン掲載）



② 実践的な教育

5つの学部

YNUでは5つの学部において、問題の本質を見極め、時代の変化に対応し得る柔軟性と創造的な課題発見解決能力を身につけ、社会の中核となって活躍する人材の育成するため、実学を重視した教育を行っています。

経済学部・経営学部 連携教育プログラム

- DSEP-Econ.（経済学部DSEP）：Data Science 教育プログラム
- DSEP-Biz.（経営学部DSEP）：Data Science 教育プログラム
- LBEEP：Lawcal Business Economics 教育プログラム

※Lawcalは、地域（local）と法（law）を組み合わせた造語です。

教育学部
Education

小学校教員養成所の設置（1874年）以来、教育現場の未来を支えるべく、多角的な視野と洞察力とを兼ね備え、環境の変化に柔軟に対応できる次世代の教員を養成している。附属学校との連携を強化しており、学生は1年次から小・中学校に出かけて実践力を磨くことができる。

経済学部
Economics

横浜高等商業学校（1923年設置）以来の伝統である理論と実務のバランスのとれた教育と、国際貿易港横浜を背景とした国際色豊かな教育を行う。英語による専門科目を取り入れ、グローバル社会で通用する実践的コミュニケーション能力も育むことで、グローバル化の深化に対応でき、経済社会にイノベーションをもたらす人材を育成している。

経営学部
Business Administration

東日本の国立大学で唯一の経営学部。グローバルな活動・競争の中でビジネスを位置づけることができる「グローバルビジネス即応力」、ビジネスをめぐる課題を全体最適視点で定義し、ソリューションを提案できる「ビジネス統合分析力」、企業経営の観点から学際的な知を統合し、社会の変革を実行できる「イノベーション力」を持った人材を育成する。

理工学部
Engineering Science

イノベーションを創出する「未来の創造的人材」育成のため、横浜高等工業学校（1920年設置）より始まった実践的工学教育を深化・発展させ、学生が早期の教育課程で理学・工学両方の素養を身に付けた後に専門教育を受けるカリキュラムを提供している。工学的センスを持った理学系科学者、理学的センスを持った技術者・研究者を育成する。

都市科学部
Urban Sciences

都市科学は、これからの都市はどうあるべきかというテーマに科学的に取り組む学問である。多くの人々が住み、働き、多様な活動が育まれ、様々な現象が起こる都市。人類や地球が直面している多くの問題を解く重要な鍵として、これからの都市のあり方を考え、文理にわたる幅広い視点から都市の未来へ挑戦する人々を育成する。

学科（コース）

学校教員養成課程
言語・文化・社会系教育コース／自然・生活系教育コース／芸術・身体・発達支援系教育コース

経済学科
- DSEP-Econ.
- LBEEP

経営学科
- DSEP-Biz.

機械・材料・海洋系学科
機械工学EP／材料工学EP／海洋空間のシステムデザインEP

化学・生命系学科
化学EP／化学応用EP／バイオEP

数物・電子情報系学科
数理科学EP／物理工学EP／電子情報システムEP／情報工学EP

都市社会共生学科
建築学科
都市基盤学科
環境リスク共生学科

② 実践的な教育

学部教育の特色

貿易と商工業で栄えてきた横浜の歴史と伝統に根差した、実学的色彩の濃い学部構成となっています。
中規模大学ならではの柔軟性とワンキャンパスの機動力を発揮して、高度で実践的な学術を継承し、世界に通用する人材を育成しています。

教育学部

Education

社会の現場での実践を推進する「学外活動・学外学習」

大学で学んだ知識を社会の現場で実践していく活動を大学の単位として認定しようという制度。小・中・高校の授業や課外活動のサポートや、子どもたちへの講座や交流活動などのボランティア活動を通して、社会的・教育的な実践力を養うのに最適な場となっている。

実践に生かせる専門教育

入学後、さまざまな領域の内容に触れながら専門とする領域を選択し、1年次秋学期以降、少人数の環境で専門分野について学び、高度な専門性を身につけます。

各コースの専門領域

- 言語・文化・社会系教育コース：国語・社会・英語・日本語教育・教育学
- 自然・生活系教育コース：数学・理科・技術・家庭科
- 芸術・身体・発達支援系教育コース：音楽・美術・保健体育・心理学・特別支援教育

教育現場での実践的な経験を重視

1年次から教育実践の場に参加し、学校や児童・生徒の実態を理解すると共に、自分の見出した教育の課題に4年間かけてじっくり向き合う。1年次の「教育実地研究」や2年次の「スクールデー実践」などで学校現場での学習を継続し、3年次に小学校・中学校・特別支援学校の「教育実習」が実施される。4年次の「教職実践演習」は、各教育実習と大学内での授業の体系的総括の機会となっている。

経済学部

Economics

少人数・双方向型教育

1年次の導入教育である数学と外国語はクラスを指定し、基礎演習も少人数・双方向型授業を行う。情報処理演習も少人数化。3年次からのゼミナール（指導教員の専門に興味をもつ学生に対して卒業論文指導を中心に指導を行う）は1学年平均7名で構成されている。

体系的な学びのプログラム

1年次から専門教育について体系的に学べるように、専門基礎科目が用意されている。2年次からは専門基幹科目や専門応用科目（初級レベル）で経済学の基礎をバランス良く学んだうえで、3年次以降は中級レベルとして、5つの専門分野（グローバル経済、現代日本経済、金融貿易分析、経済数量分析、法と経済社会）から自分の主分野、副分野を選択し、各学生が自分の将来を見据えて主体的に学び、高い専門性を身につけていく。

課題プロジェクト演習

一年次の基礎演習と三年次からの演習（ゼミナール）に接続させるための演習科目であり、少人数で、プレゼンテーションやディスカッション、さらにはフィールドワークを重視している。開講当初に学生がそれぞれ自分の目標を設定し、教員と共に中間評価、最終評価を行う（双方向型学習評価システム）。英語で行う演習も、Economic Theory, Applied Economics, International Economic Policy等、多数開講されている。

英語討論会

経済学部では、アジア英語討論会、欧州英語討論会、Global Applied Economics Forumという3種類の「英語討論会」を実施している。英語を駆使し、経済を討論することでグローバルな視点を培うため、海外経験を求める学生のために用意されたプログラム。10日から2週間程度で、海外協定校訪問と現地学生との討論会のほか、現地企業や国際機関の視察も行う。

② 実践的な教育

経営学部

Business Administration

充実した体験型授業

経営学分野でのゲーミング・シミュレーションの一つである「ビジネスゲーム」では、コンピュータ上に構築された仮想的マーケットの中で、複数の学生が企業の経営者として商品の生産、仕入れ、販売を行い競い合うことで、経営学関連の諸科目（会計、マーケティング、生産、流通、戦略など）の理解を深め、学習に対するモチベーションを高めることに絶大な効果を発揮している。さらに、「マイプロジェクトランチャー」では、学生自らプロジェクトを作成、プレゼンを行い、プロジェクト実践能力を磨いている。

会計CAI（Computer-Aided Instruction）

経営学部で開講している会計関連科目（簿記論、原価会計論、管理会計論等）では、コンピュータを活用したeラーニングシステムとして「会計CAI（Computer-Aided Instruction）」を導入している。横浜国立大学の会計学スタッフが1980年代から開発に着手し、現在では、Web化やコンテンツの充実が図られるようになっている。会計CAIは、学生の理解を促進するために講義に連動した形で導入され、学生の自宅での時間外学修を促すツールとして役立てられている。なお、会計CAIの一つのモジュールである簿記CAIは、簿記教育におけるeラーニングの先駆としての先見性と、教育効果が高く評価され、平成27（2015）年度日本簿記学会学会賞を受賞している。

企業トップなどの実務家や英語による特殊講義

「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」といった毎週代表取締役クラスの経営者を迎え、様々な角度から企業経営を学ぶ授業がある。これらの科目を修得した後は比較的長期にわたるインターンシップを行い、単位化することができる。経営学の諸領域にわたる特殊講義を提供することで、生きた経営学を学び、学生自身のキャリアビジョンを描けるよう支援している。

理工学部

Engineering Science

「名教自然」の精神

「名教自然」とは、無試験、無採点、無賞罰の「三無主義」に象徴される横浜高等工業学校（理工学部前身）の教育思想。優れた教育・研究は自然を尊ぶ、つまり学問は強制されずに、自らの意思で自発的に、自由に学ぶべきであり、自学自発の教育主義により、優れた人材を育成するという意味。「三無主義」はすでに廃止されているが、今でもYNUの理工学系教育の精神として根付いている。

基盤教育では、学科を横断して学ぶ

各学科を横断した導入教育を強化し、円滑な大学教育への移行を図っている。各教育プログラム（EP）では、理工学部に適した基盤教育を重点的に提供している。

高い専門性と広い基礎教育

学部担当教員が、学科の枠を超え複数の教育プログラム（EP）に参画する主担当・副担当教員制度を導入しているため、EPの専門性に加えて、広い理工学基礎教育が充実している。

理工学部の最先端の研究に早期に参加できる「ROUTE・iROUTE」プロジェクト

ROUTE（Research Opportunities for Undergraduates）とは、通常4年生から研究室に配属となる中、やる気のある1～3年生が早い段階から研究室に入り先端研究に取り組むことができる「出る杭を伸ばす」プロジェクト。さらに、iROUTE（「i」はinternationalの頭文字）では、ROUTE参加学生が、指導教員の海外共同研究先に研究留学したり、逆に海外有力大学から本学に教授を招へいし集中講義に受講するなど、国際感覚を養う。
第24回工学教育賞（文部科学大臣賞）受賞の注目プロジェクト。

副専攻プログラム

理工学部では、学生が履修する教育プログラム（主専攻プログラム）での学修に加え、広く他分野の科学技術に目を向ける進取的精神の涵養と、新たなる知識の地平を切り拓きつつそこに内蔵される課題を掘り起こす能力を磨くため、ある専門領域の主題に沿って設計された学部内横断的な教育プログラム（理工学部副専攻プログラム）を学ぶことができる。
この副専攻プログラムを履修するためには、4年次までに登録を行う必要がある。副専攻プログラムを学ぶ学生は、卒業要件である主専攻プログラムの科目履修（124単位）に加え、副専攻プログラムで指定された科目（標準は24単位）を履修する。指定科目を履修して所定の要件を満たした者には修了証が授与される。

都市科学部

Urban Sciences

都市科学の基本的な素養・リテラシー・技術を習得する「学部共通科目」

都市科学の素養やリテラシー・技術を確実に身に付けるため、都市科学部学生全員が1・2年次に学ぶ「学部共通科目」が充実している。学部共通科目は、「都市科学の基礎」および、「グローバル・ローカル」、「リスク共生」、「イノベーション」の3つの分野の関連科目で構成されている。

分野横断、文理融合の教育プログラム

分野横断、文理融合の学びを実質化するために、様々な仕組みを設けている。学部共通科目の「都市科学A・B・C」では文系・理系の複数の教員がオムニバス形式で講義を進め、「社会デザイン・フューチャーセッション」では、教員と学生による双方向の講義・演習を行う。また、所属と異なる学科が開講している科目を専門科目として修得できる。さらに、卒業研究においては、複数の分野の教員による指導を受けることができる。

横浜・神奈川地域をフィールドとして実践力を養う

多様な都市の課題を抱える最先進の国際都市「横浜・神奈川地域」の歴史や文化、都市づくりなどについて幅広く学ぶことができる都市科学部開講科目の「地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）」、経済学部開講科目の「地域連携と都市再生B（かながわ地域学）」を履修することができるほか、各学科の演習科目、卒業研究でも、横浜・神奈川地域を積極的にフィールドとして取り組み、地域に関する情報やデータと実際の地域のフィールドワークと組み合わせて学ぶことで実践力を養う。

6つの大学院

YNUでは6つの大学院において、高度で専門的な教育・研究を行い、リーダーとして世界で活躍できる高度専門職業人を輩出することで社会の更なる発展に寄与しています。

大学院英語プログラム

YNUでは右記の英語プログラムを提供しています。また理工学府ではすべての講義は英語で提供されます。

修士プログラム

- 国際基盤工学／国際基盤学（IGSI）／インフラストラクチャー管理学（IMP）

博士プログラム

- 国際経済／日本的経営／トランスナショナル法政策／国際基盤工学

教育学研究科
Education

社会環境の急激な変化に伴い、学校教育をめぐる諸問題が複雑化・深刻化する中で、より高度で実践的な能力を備えた教員・研究者・専門家が求められている。教科別・ジャンル別の固定的な教育・研究の枠にとらわれず、現代社会に即応できる、あるいは近未来を見据えた、新しいスタイルや内容による「教育デザイン」を実現できる人材を養成する。

専攻（コース）

修士課程

- **教育支援専攻**
  心理支援コース／日本語教育コース

専門職学位課程

- **高度教職実践専攻（教職大学院）**
  学校マネジメントプログラム／教科教育・特別支援教育プログラム

※その後の進学先として、東京学芸大学、埼玉大学、千葉大学、横浜国立大学で構成される連合大学院で、博士課程後期のみの独立研究科があります。

国際社会科学府
International Social Sciences

国際社会で活躍する高度専門実務家・研究者を育成する社会科学の総合的大学院。経済学・経営学・法学の分野の高い専門性を身に付けるとともに、異なる社会経済環境に適応できる幅広い専門知識を有する人材を育成する。専攻横断的プログラムや英語によるプログラムを設け、専門性を活かした融合的・国際的な教育研究を行っている。

博士課程前期・後期

- **経済学専攻**
- **経営学専攻**
- **国際経済法学専攻**

博士課程前期

- **経営学専攻**
  社会人専修コース（横浜ビジネススクール）

理工学府
Engineering Science

現代の超スマート社会において、工学の有り様が大きく変わってきている。また、国際的な競争の中で、日本の産業構造も変化を迫られている。このような背景のもと、主導的に、グローバルに、付加価値の高い製品を創出する「サイエンス型産業」を創造する人材を育成することを目的に、工学府は、2018年4月に理工学府に生まれ変わった。

博士課程前期・後期

- **機械・材料・海洋系工学専攻**
  機械工学教育分野／材料工学教育分野／海洋空間教育分野／航空宇宙工学教育分野（前期のみ）／エネルギー材料教育分野（後期のみ）
- **化学・生命系理工学専攻**
  化学教育分野／応用化学教育分野／エネルギー化学教育分野（前期のみ）／化学応用・バイオ教育分野／エネルギー材料教育分野（後期のみ）
- **数物・電子情報系理工学専攻**
  数学教育分野／物理工学教育分野／応用物理教育分野／情報システム教育分野／電気電子ネットワーク教育分野

環境情報学府
Environment and Information Sciences

環境と情報を基軸とした学際的な文理融合的視座を持ち、環境や社会に対する総合的な理解のもとで、人工環境、自然環境、情報環境に関する自らの専門的な知識と技能を活用して、安心・安全な持続可能社会を構築する上で必要な課題を自ら発見し、解決への道筋を生み出すことのできる人材を育成する。

博士課程前期・後期

- **人工環境専攻**
  安全環境工学プログラム／環境学プログラム／社会環境プログラム
- **自然環境専攻**
  生態学プログラム／地球科学プログラム／環境学術プログラム
- **情報環境専攻**
  情報学プログラム／数理科学プログラム／情報学術プログラム

都市イノベーション学府
Urban Innovation

大都市が抱える経済の停滞、高齢化や少子化などの社会問題、地球温暖化に代表される環境問題、中小規模都市の人口・都市活動の流出や都市自体の縮退、さらには新興国や開発途上国での急激な経済成長や産業構造変化に伴う社会基盤や生活基盤の諸課題を分析・掌握し、解決に向けての方策を提案できる専門知識を習得する。

博士課程前期

- **建築都市文化専攻**
  建築都市文化コース／建築都市デザインコース（Y-GSA）／横浜都市文化コース（Y-GSC）
- **都市地域社会専攻**
  都市地域社会コース／国際基盤学コース（IGSI）／インフラストラクチャー管理学コース（IMP）

博士課程後期

- **都市イノベーション専攻**

先進実践学環
Innovative and Practical Studies

国際社会科学府、理工学府、環境情報学府、都市イノベーション学府の教育研究分野の融合を図るため、YNUの「環」として2021年に誕生。「社会を構成する人間の理解」と「先進的な数理・データサイエンスの技法」を身につけ、文理融合・異分野融合の視点を持つことで、新たな価値を創出し、Society 5.0の構築や普及を牽引する人材を養成する。

修士課程

- **研究テーマ**
  応用AI/社会データサイエンス/リスク共生学/国際ガバナンス/成熟社会/人間力創生/横浜アーバニスト

ゆとりある大都市、横浜

YNUがキャンパスを構える横浜は、東京や羽田空港からアクセスが良く、大都市ですが東京ほど混雑していません。
外国人を含め、大勢の観光客が訪れるお洒落で魅力的な街ですが、ベッドタウンでもあるため生活環境が整っており、安全で住みやすい街です。またわずか150年で小さな漁村から日本第2位の大都市に発展した非常にユニークな歴史を持つとともに、鉄道・日刊新聞・街灯・水道・テニス・ビールなど、多くの西洋文化の「日本発祥の地」でもあります。

1 横浜みなとみらい21
2 横浜マリンタワー
3 横浜中華街
4 横浜港大さん橋国際客船ターミナル
5 横浜ベイブリッジ
6 横浜赤レンガ倉庫

Yokohama Visitor's Guide
www.welcome.city.yokohama.jp

3 理想的な立地と環境

交通アクセス
30min
From Tokyo Station & Haneda Airport

大都市
2nd
Largest City in Japan

人 口
3.7million
Population of

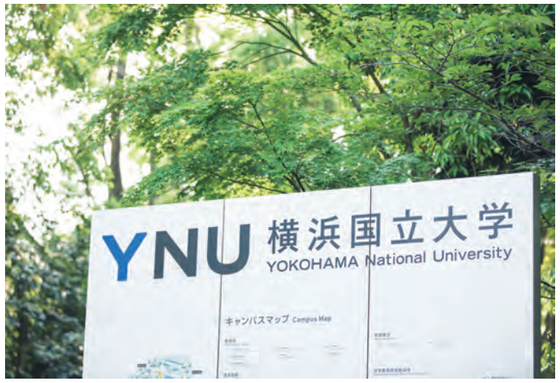
年間観光客
36million
Tourists / year

歴 史
150years
Developed within

日本発祥の地
1st
City in Japan to Adopt Western Culture

緑豊かなキャンパス

すべての学部・大学院が集まっているYNUの常盤台キャンパスは、日本で最初の18ホールのゴルフ場である「程ヶ谷カントリー倶楽部」の跡地に建てられました。
横浜駅からわずか3kmしか離れていませんが、まるで公園のように緑が広がっています。勉強・研究に集中できるとともに、リラックスした学生生活が過ごせる理想的な環境です。



④ 充実した施設と学生支援

YNUは、多様な学生が生き生きと学ぶことができる教育拠点になることを目指しています。YNUでのキャンパスライフをイメージしてもらうため、ここでは、学生向け施設や、サービス・制度のうち、特徴的なものをいくつか紹介します。

01.

中央図書館

解放感のある快適な環境で、読書や学修をすることができます。約71万冊の蔵書と1200席の閲覧席がある他、ラーニング・コモンズ、ワーキングスタジオ、メディアホール、カフェ等が設置されており、多機能スペースとしても利用されています。この他、学内には社会科学系研究図書館と理工学系研究図書館があります。

02.

学生センター

奨学金、授業料免除、寮、ビザの更新、課外活動、交換留学、就職活動などの相談や申請にワンストップサービスで対応しています。この他各種証明書の自動発行機や「なんでも相談室」を利用することもできます。

03.

キャリアサポートルーム

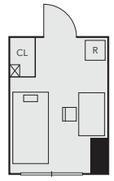
YNUでは、就職ガイダンス、企業研究セミナー、面接対策講座、企業説明会などを行っています。キャリアサポートルームでは企業から送られてきた説明会情報や求人情報を掲示しているほか、OB・OG名簿検索、公務員関係資料・インターンシップ情報などを収集できます。また、個別の就職相談も行っています。就職・進学状況は25ページを参照してください。

04. 4つの学生寮

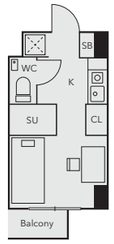
YNUでは、4つの学生寮があり宿舎、合計部屋数600室以上を提供しています。経済支援の目的をもつ峰沢国際交流会館、留学生との共同生活を経験できる常盤台インターナショナルレジデンス、通学定期の範囲に横浜やみなとみらい地区が含まれる大岡インターナショナルレジデンスから、自分にあった寮を見つけてください。また、一部にバリアフリー室もあります。

常盤台インターナショナルレジデンス

戸数・面積	112 / 8m² (シェア) 166 / 16m² (個室)
通学時間	キャンパス内
入居期間	最大で修業年限の年数内
入居一時金	¥55,000 (税込)
賃料 (月額)	¥32,500 (シェア) ¥43,500 (個室)
共益費 (月額)	¥6,300
水道光熱費 (月額)	¥15,510 (税込)



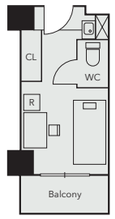
シェアタイプ※1



個室タイプ

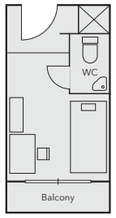
大岡インターナショナルレジデンス※1

戸数・面積	252 / 12m²
通学時間	徒歩・地下鉄 約40分
入居期間	最大で修業年限の年数内
入居一時金	¥55,000 (税込)
賃料 (月額)	¥33,000
共益費 (月額)	¥10,000



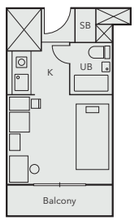
峰沢国際交流会館※

戸数・面積	222 / 12m²
通学時間	徒歩5分
入居期間	2年 (留学生は1年) 以内
入居一時金	¥0
賃料 (月額)	¥5,700
共益費 (月額)	¥5,040※2



留学生会館 (留学生のみ入居可)

戸数・面積	128 / 16m²
通学時間	徒歩・地下鉄 約40分
入居期間	1年以内
入居一時金	¥0
賃料 (月額)	¥5,900
共益費 (月額)	¥9,190



※1 キッチンとシャワーは共同。
※2 2023年10月から¥5,130

④ 充実した施設と学生支援

05.

食堂と売店

YNUには大学生協運営の第1食堂（シェルシュ）、第2食堂（理工学部食堂）の2つの学生食堂があり、豊富なメニューを手頃な価格で提供しています。この他、カフェや大学生協、コンビニエンスストア、移動販売車でもランチや軽食を購入することができます。

06.

交換留学制度

YNUでは毎年約50名が世界各国の協定校へ交換留学生として留学しています。また、交換留学以外にも様々な短期の留学プログラムも用意しています。

07.

保健管理センター

怪我や急病が発生した場合に応急処置を行い、必要に応じた医療機関への紹介を行うほか、精神科医やカウンセラーによる心の健康相談や、年に2回の定期健康診断、就職・進学・教育実習等に必要な健康診断証明書の発行なども行っています。

08.

クラブ・サークル活動

大学生活を彩る一つの活動としてクラブ・サークル活動があります。YNUには、体育系サークルと文化系サークルがそれぞれ40団体以上あり、多くの学生が積極的に活動をしています。

09.

コンタクト教員制度

学生一人一人に対して、相談窓口となる担当教員を定めたコンタクト教員制度を導入しています。日々の学習や履修科目についての相談を受けるだけでなく、学生ポートフォリオに基づき継続的なサポートを行います。

10.

地域実践教育研究センター

全学の学部生を主対象とした副専攻プログラム「地域交流科目」などにより、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる21世紀型人材育成を体系的に行うとともに、内外の諸機関・諸地域と連携しながら教育・研究・実践活動を行い、広く情報を発信しています。

11.

105＆ISL（留学生サポートグループ）

YNUでは、学生サポートグループ「105」や「International Student Lounge（通称：ISL）」などが、留学生の勉強（レポートの添削、テスト対策等）や学内の各種手続きのサポートを行うほか、ウェルカムパーティー、BBQ、インターナショナルフードパーティーなど、日本人と留学生の交流イベントを多数企画しています。

12.

アパート・マンション紹介

アパートなどの入居を希望する学生のため、「横浜国立大学生活協同組合」が環境、通学距離等を考慮して、学生生活に適した下宿、アパート等を無料で紹介しています。「下宿、アパート情報」を必要とする方は、大学会館内の横浜国立大学生活協同組合事務室に直接出向くか、横浜国立大学生活協同組合の住まい紹介をご覧ください。

13.

なんでも相談室

学生の皆さんが学生生活を送るうえで、困ったことや分からないことを気軽に相談できるところです。学業・健康・進路・友人のことや日常生活のさまざまな事柄について、担当スタッフや専門教員が相談にのり、一緒に解決策を考えます。もちろん、相談内容の秘密は厳守します。学生センター2階にあります。

14.

日本留学AWARDS

YNUは日本語学校の教員が留学生に推薦したい大学を選ぶ「日本留学AWARDS」の「東日本地区国立・公立大学部門」の大賞を2017年から5年連続で受賞し、2021年に殿堂入りしました。また、2018年・2020年には「東日本地区大学院部門」（※2021年より「国立・公立大学部門」に統合）でも大賞を受賞しており、日本語学校から、進学先として非常に高い評価を得ています。

15.

障がい学生支援室

本学に在籍する障がいのある学生が障がいのない学生と同じように教育や研究に参加できるよう、学内の関係部署等と連携して、支援を行っています。修学に際してどのような困難があるかをお伺いし、どのような支援が最適なのか、一緒に相談しながら決めていきます。

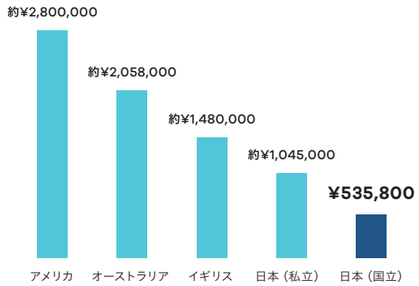
5 費用と進路

大学での学費と生活費

授業料

日本の国立大学の授業料は、欧米の大学や日本の私立大学と比較すると非常に経済的です。（海外の協定校への交換留学制度を利用すると、協定校へ授業料を払わずに留学することができます。）なお、国立大学の授業料は、学部・大学院、日本人・留学生、理系・文系に関わらず、一部の大学を除き同額です。

※年間授業料の国際比較。算出は文部科学省「教育指標の国際比較」及び「トビタテ留学JAPAN」ウェブサイトに基づく。円換算は2018年3月末現在。



YNUでの初年度の学費

入学料 ¥282,000 ＋ 授業料（年額） ¥535,800 ＝ 合計 ¥817,800

※文部科学省「平成30年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金 平均額（定員1人当たり）の調査結果について」によると、私立大学文科系学部の平均は¥1,166,922、私立大学理科系学部の平均は ¥1,544,962。

高等教育の修学支援新制度

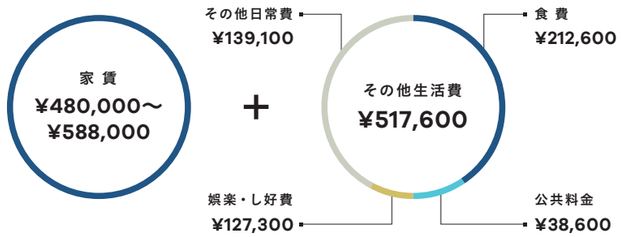
2020年4月から高等教育の修学支援新制度（入学料・授業料等減免および給付型奨学金の支給）が開始しました。本学は大学等における修学の支援に関する法律に基づき、文部科学省により一定の要件を満たすことの確認を受け、「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定されています。これに加え、入学前1年以内に学資を主として負担している者が死亡し、または本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合で、入学料の納入が著しく困難であると認められる者については、申請者の中から選考のうえ、入学料の全額または一部の額を免除する制度がありますので、該当する方はご相談ください。

奨学金

学業や人物が優れている学生が経済的理由により修学が困難であると認められる場合に学資の貸与等を行う制度です。YNUが取り扱う奨学金制度には、学内奨学金、日本学生支援機構、地方公共団体および民間育英団体奨学金などがあります。

12か月の生活費の目安

※「家賃」は大学近辺のワンルームおよび1Kの家賃相場の平均値。
寮の場合は、¥128,880-¥738,000。「その他の生活費」は日本学生支援機構「令和2年度学生生活調査結果」に基づき算出。家賃・生活費はライフスタイルによって異なるため、上記の金額はあくまで目安。



就職状況

人事が見る大学イメージランキングで本学が4位にランクイン

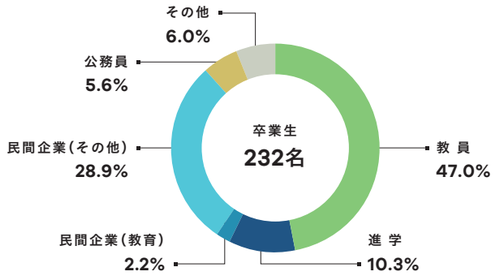
YNUは、2022年に日本経済新聞社と就職・転職支援の日経HRが全上場企業と一部有力未上場企業の人事担当者に実施した、採用した学生から見た大学のイメージ調査で、総合ランキング4位（関東甲信越地域では1位）にランクインしました。

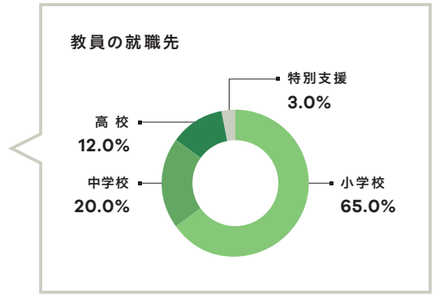
www.ynu.ac.jp/hus/koho/28172/

進路状況（2021年度卒業生）

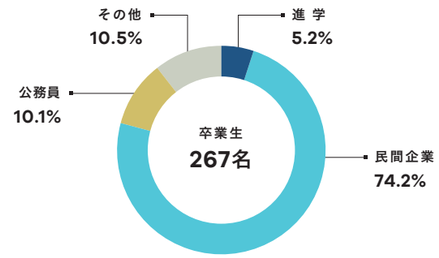
偏りなく、幅広い業界・幅広い規模の企業に就職しているのが特徴です。日本有数の企業へ就職したり、日本最難関の大学院へ進学していることは、YNUが提供する教育の質が高いことを示しています。

教育学部

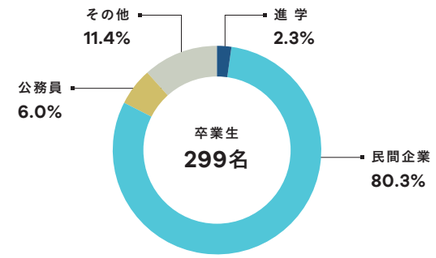




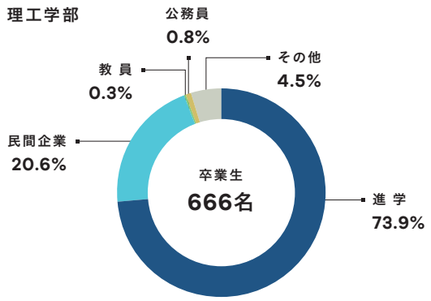
経済学部



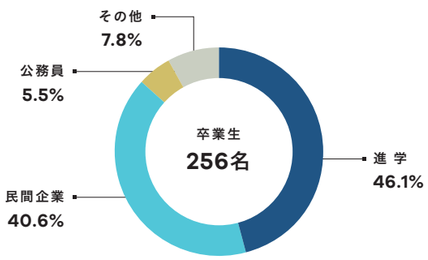
経営学部



理工学部



都市科学部



2021年度卒業生の進路

教育学部

教育、学習支援	教　員	横浜市、神奈川県、川崎市、横須賀市、茅ケ崎市、藤沢市、富山県、東京都、山形県、千葉県、新潟県、相模原市、大和市、海老名市、三浦市、小田原市、綾瀬市、私立、他
	研究者	横浜国立大学、長崎大学、福知山公立大学
	民　間	臨海、ラインズ、リンクアカデミー、日本入試センター、日立アカデミー
その他		横浜市役所、神奈川県庁、凸版印刷、奥村組、TIS、ヤマト運輸、SMBC日興証券、PwCコンサルティング合同会社、他

経済学部

民間企業	情報通信、放送	日本アイ・ビー・エム、楽天グループ、JSOL、SHIFT、エヌ・ティ・ティ・データ、野村総合研究所、日本経済新聞社、北海道テレビ放送、コダマコーポレーション、大塚商会、他
	金融、保険、損保	横浜銀行、静岡銀行、三井住友銀行、ゆうちょ銀行、日本政策金融公庫、中央労働金庫、大和証券、SMBC日興証券、あいおいニッセイ同和損害保険、日本生命保険相互会社、三井住友海上火災保険、他
	その他 （コンサルティング、商社など）	EY新日本有限責任監査法人、PwCコンサルティング合同会社、アクセンチュア、有限責任監査法人トーマツ、アビームコンサルティング、電通、日本工営、デロイトトーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社、他
公務員		国税庁、東京国税局、横浜税関、金融庁、厚生労働省、総務省、外務省、内閣府、公正取引委員会、横浜地方裁判所、財務省関東財務局、神奈川県庁、東京都庁、特別区、神奈川県警察、福岡市消防局

経営学部

民間企業	情報通信、放送	富士通、楽天グループ、NTTドコモ、エヌ・ティ・ティ・データ、KDDI、日本アイ・ビー・エム、東日本電信電話、静岡朝日テレビ、JapanFuse、デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム、他
	金融、保険、損保	三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、りそな銀行、ゆうちょ銀行、横浜銀行、静岡銀行、大和証券、SMBC日興証券、ジェーシービー、日本生命保険相互会社、三井住友海上火災保険、他
	その他 （コンサルティング、商社など）	アクセンチュア、アビームコンサルティング、ソニーグループ、PwCコンサルティング合同会社、デロイトトーマツ税理士法人、有限責任監査法人トーマツ、EY新日本有限責任監査法人、他
公務員		厚生労働省、国土交通省、農林水産省、神奈川労働局、東京地方裁判所、東海農政局、神奈川県庁、横浜市役所、大田区役所、札幌市役所、鎌倉市役所、群馬県庁、福井県庁、福島県庁、豊島区役所、他

理工学部

進　学		横浜国立大学大学院（理工学府・環境情報学府・先進実践学環）、東京大学大学院、東京工業大学大学院、東北大学大学院、名古屋大学大学院、他
民間企業	情報通信、放送	ソフトバンク、日本テレビ放送網、野村総合研究所、楽天グループ、NECソリューションイノベータ、日本アイ・ビー・エム、富士通、オービック、DYM、JSOL、他
	各種メーカー	スズキ、住友電気工業、デンソー、トヨタ自動車、日産自動車、いすゞ自動車、任天堂、富士フィルムビジネスイノベーション、三菱電機、リコー、YKK AP、ポーラ、日本発条、カネカ、本田技研工業、他
	その他 （建設、輸送など）	旭化成ホームズ、日揮グローバル、アサノ大成基礎エンジニアリング、エクシオモバイル、北陸電話工事、川崎汽船、東京地下鉄、東日本旅客鉄道、大和証券、明治安田生命保険相互会社、他
公務員		農林水産省、静岡県庁、神奈川県内広域水道企業団、尾道市役所

都市科学部

進　学		横浜国立大学大学院（都市イノベーション学府・環境情報学府・先進実践学環）、東京大学大学院、東京工業大学大学院、京都工芸繊維大学大学院、岡山大学大学院、他
民間企業	情報通信、放送	NTTドコモ、東日本電信電話、富士通、白泉社、オービック、NTTテクノクロス、明治安田システム・テクノロジー、日本放送協会、テレビ北海道、朝日放送テレビ、他
	建設業、プラント、電気、ガス	大林組、五洋建設、住友林業、積水ハウス、大成建設、奥村組、トヨタホーム、三井住友建設、合田工務店、日鉄エンジニアリング、日揮グローバル、他
	その他 （コンサルティング、輸送など）	アクセンチュア、日本工営、建設技研インターナショナル、ポラス、NTTファシリティーズ、バーチャレクス・コンサルティング、東海旅客鉄道、東日本高速道路、北海道旅客鉄道、名古屋鉄道、日本通運、他
公務員		環境省、文部科学省、防衛省、国税庁、気象庁、神奈川県庁、横浜市役所、東京都庁、伊豆の国市役所、川崎市役所、大仙市役所

主な進路についての詳細はこちらをご覧ください。

www.ynu.ac.jp/career/support/data/

Why Study at YNU?

YNU横浜国立大学に興味をもっていただき
ありがとうございます。

この冊子は、大学進学を検討しているみなさんに、
YNUで学ぶことの魅力を伝えたいと思い作りました。

YNUの教育や研究、キャンパスライフ、
そして費用や将来のキャリアパスについて知り、
学生生活のイメージを膨らませることができたでしょうか。

この冊子を読んで、少しでも多くのみなさんに
「YNUで学びたい！」と思っていただければ嬉しく思います。

YNU Initiative for Global Arts & Sciences 横浜国立大学

入試課

〒240-8501 横浜市保土ケ谷区常盤台79-8
Tel: 045-339-3121　Fax: 045-339-3129
E-mail: nyushi1@ynu.ac.jp

www.ynu.ac.jp

もっと詳しい情報を知りたい方は、
Webサイトをご覧ください。

www.whystudyat.ynu.ac.jp/admissions/

YNU

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

2023.05